

授業科目名	計量経済学	単位数	4	開設期	前期
担当教員	河田 正樹	授業区分	現代経済学科		
対象学生	3年生	備考			

①授業のねらい・概要

計量経済学とは、経済諸現象の背後にある関係を数量的に把握するための方法であり、経済理論をデータを用いて統計的手法によって分析することです。

今日ではコンピュータを用いて、誰でも手軽に計量経済分析をおこなうことができます。しかし、その結果を解釈することができなければ分析をおこなう意味はまったくありません。この講義ではExcelや統計解析システム R を用いて実際の経済データについての分析をおこなうとともに、結果を解釈するための理論を学びます。

②学習の到達目標

学部レベルの計量経済分析を、Rを用いておこない、その結果の解釈ができるようになります。

③授業全体のすすめ方・指示事項

この講義は理論面の講義とコンピュータ実習の両面から成り立っています。

講義科目『統計学』を履修済みであり、Excelの基本的な使い方（コピーのしかた、グラフの描き方など）を既に習得していることを前提としています。未履修の人は、同等の内容を自習することによって補ってください。

講義内容の理解を助けるために、随時練習問題をおこないます。（講義時間中または宿題）

④授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	重回帰分析（2）
第2回	統計学の復習（1）	第17回	重回帰分析（3）
第3回	統計学の復習（2）	第18回	重回帰分析（4）
第4回	統計学の復習（3）	第19回	回帰分析の諸問題（1）
第5回	統計学の復習（4）	第20回	回帰分析の諸問題（2）
第6回	統計学の復習（5）	第21回	回帰分析の諸問題（3）
第7回	単回帰分析（1）	第22回	回帰分析の諸問題（4）
第8回	単回帰分析（2）	第23回	回帰分析の諸問題（5）
第9回	単回帰分析（3）	第24回	ダミー変数（1）
第10回	単回帰分析（4）	第25回	ダミー変数（2）
第11回	単回帰分析（5）	第26回	ダミー変数（3）
第12回	単回帰分析（6）	第27回	連立方程式モデル（1）
第13回	単回帰分析（7）	第28回	連立方程式モデル（2）
第14回	単回帰分析（8）	第29回	連立方程式モデル（3）
第15回	重回帰分析（1）	第30回	時系列モデル入門

⑤成績評価の方法

期末試験とレポート（1回）の合計点で評価します。レポートや試験のためには、日頃からの努力が必要です。

⑥成績評価の基準

成績評価の項目	具体的な内容と方法	評価割合（%）
定期試験（期末試験）	試験期間に期末試験を実施します。	50
レポートや提出作品の評価	Rを用いた実証分析をおこない、その結果についての考察をレポートにまとめてもらいます。	50
平常点評価 （小テスト、発表、グループ作業の成果、授業態度）	コンピュータ実習において、 出席不良者への対処が講義進行の妨げ となることがあります。このような出席不良者に対し、 単位修得の見込みがないことを告知 することがあります。 また、欠席した場合は、教科書・講義スライドなどによってその部分を自習してください。	0
その他（ ）		0
合計		100

⑦教科書	水野勝之『テキスト計量経済学（第2版）』中央経済社 3,360円
⑧指定図書・参考書等	白砂堤津耶『[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学』[第2版] 日本評論社 2,940円 秋山 裕『Rによる計量経済学』オーム社 2,940円
⑨メッセージ	講義用HP（ http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada ）も参照してください。 計量経済学をきちんと理解することは容易なことではありません。私のほうもなるべくわかりやすい講義をおこなうつもりですが、ただ授業に出席しているだけで理解することは不可能でしょう。毎回授業に出席し、宿題として出された練習問題をこなすなどの復習をきちんとおこなう 意欲のある学生のみ履修するようにしてください。